

第二一七回ペン川柳会

令和四年六月二十七日

お題 「急・急ぐ」

■ 三春 (火酒)

ウオツカ

急かされてもつれる舌の先三寸
マイカーは天下御免の救急車

■ 松谷 (零門)

れいもん

こりややばい急に優しくなった妻
これからも急かずに目指す米寿超え

■ 曾山 (酩帝)

めいてい

わがからだ急所がどこかまだ分からん
八十路迄急いで来たがまだ急げ？

■ 塚田 (拿々)

だだ

熟女には急がば回れ焦るなよ
おとつと急場凌ぎで生き抜いた

■ 稲宮 (井波)

いなみ

減る急げ子づくりのわざ教え込め
千兆円減らず急げず孫子まで

■ 西川 (酔雅)

すいが

八十路入りトイレに急ぐ足もつれ
急ぐのに秀句浮かばず脂汗

■ 八木 (明迷)

めいめい

急な客ルンバを裏に置いてみる
カストロと急場凌いだチエゲバラ

■ 安藤 (晃二)

てるつぐ

風雲急あすは我身ぞウクライナ
特急の警笛哀し大井川

■ 大野 (だし)

『急がずば』痛み感じて九十年
序破急とリズムにうなされ九十年

世話人 塚田 實(拿々)

だだ